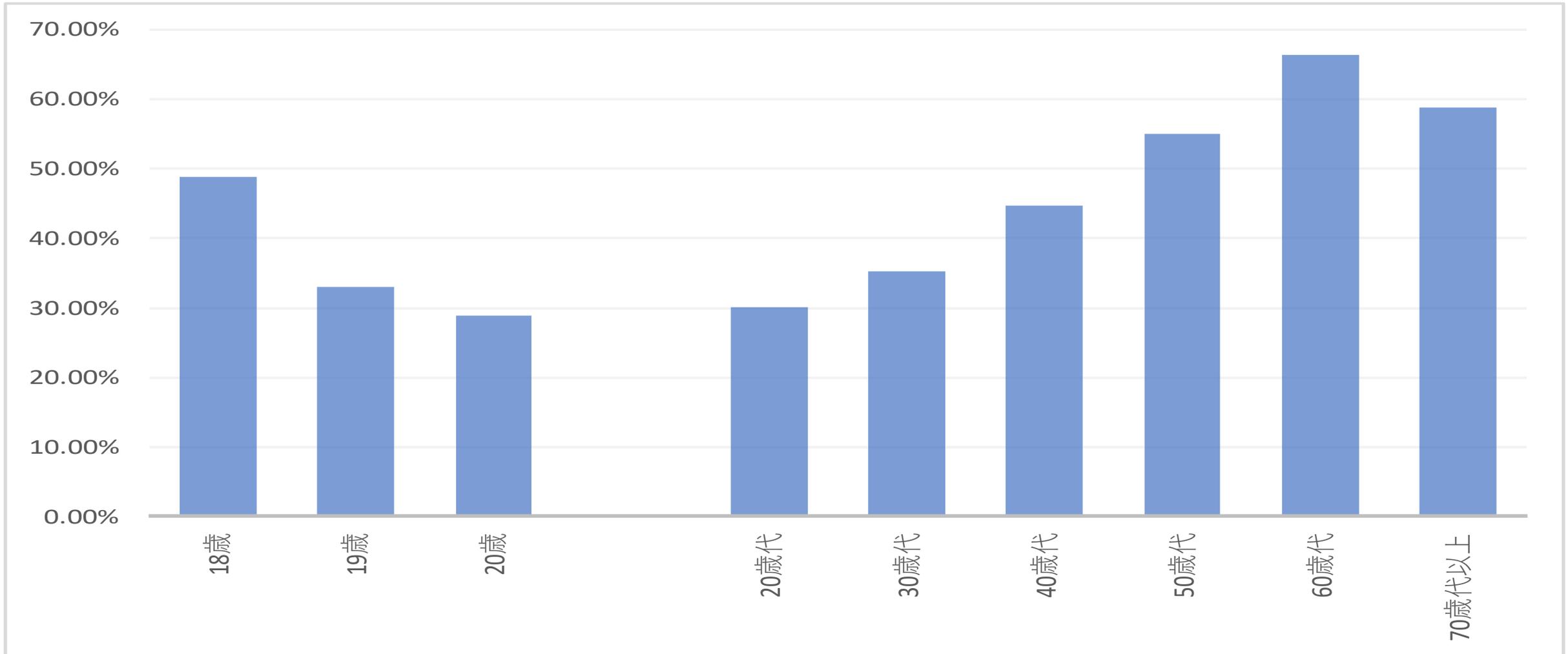


政策選択と投票行動

政策学概論 第13回

世代別の投票率（千葉市）※平成29年衆議院選挙



出所：千葉市選挙管理委員会

千葉市の有権者数と投票者数※平成30年9月末

	有権者数	投票率	投票者数
20歳代	100,977	30.10%	30,394
30歳代	113,859	35.32%	40,215
40歳代	161,239	44.68%	72,042
50歳代	127,838	55.00%	70,311
60歳代	114,881	66.34%	76,212
70歳代以上	184,504	58.75%	108,396

出所：千葉市・千葉市選挙管理委員会

千葉市の有権者数と投票者数※平成30年9月末

	有権者数	投票率	投票者数
20歳代	100,977	30.10%	30,394
30歳代	112,259	35.32%	40,215
40歳代	1.14	44.68%	72,042
50歳代	121,138	55.00%	70,311
60歳代	114,881	66.34%	76,212
70歳代以上	184,504	58.75%	108,396

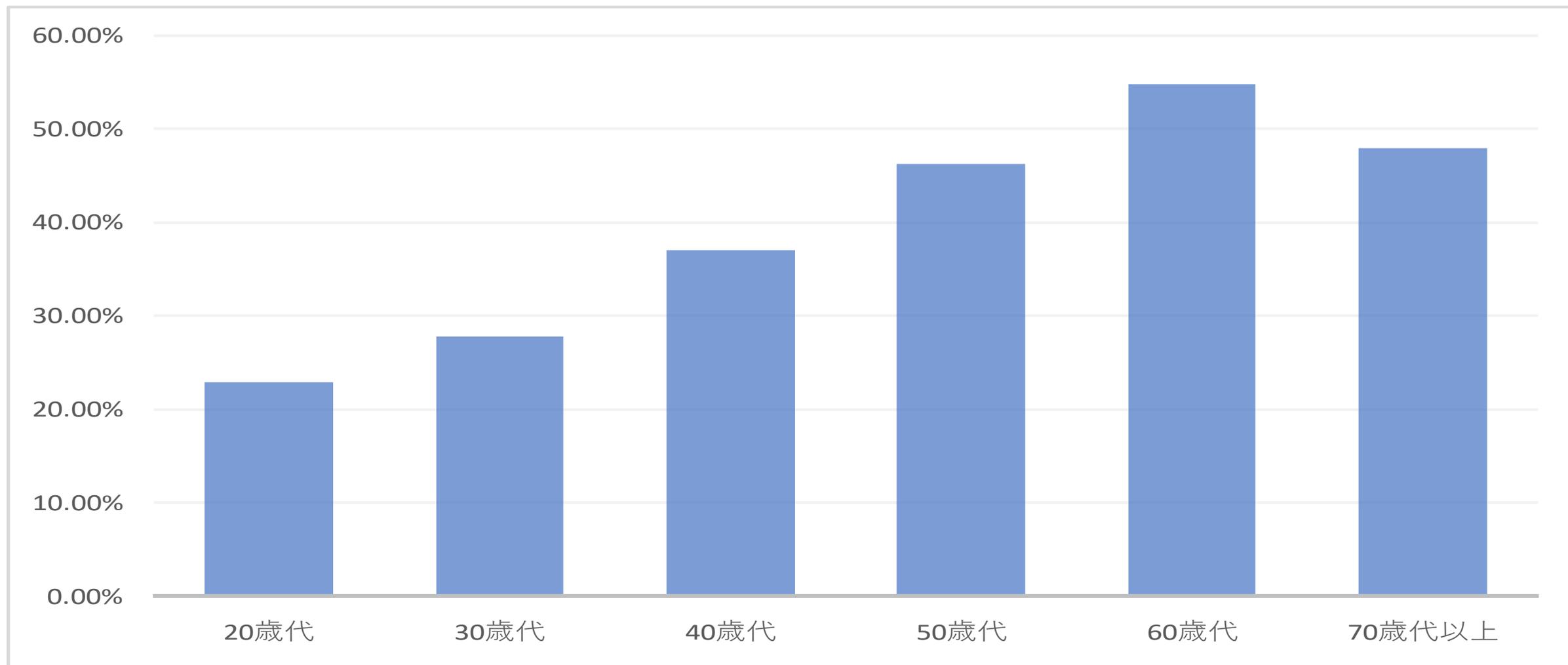
出所：千葉市・千葉市選挙管理委員会

千葉市の有権者数と投票者数※平成30年9月末

	有権者数	投票率	投票者数
20歳代	100,977	30.10%	30,394
30歳代	112,259	35.32%	40,155
40歳代	1.14	44.68%	2.51
50歳代	127,138	55.00%	70,111
60歳代	114,881	66.34%	76,212
70歳代以上	184,504	58.75%	108,396

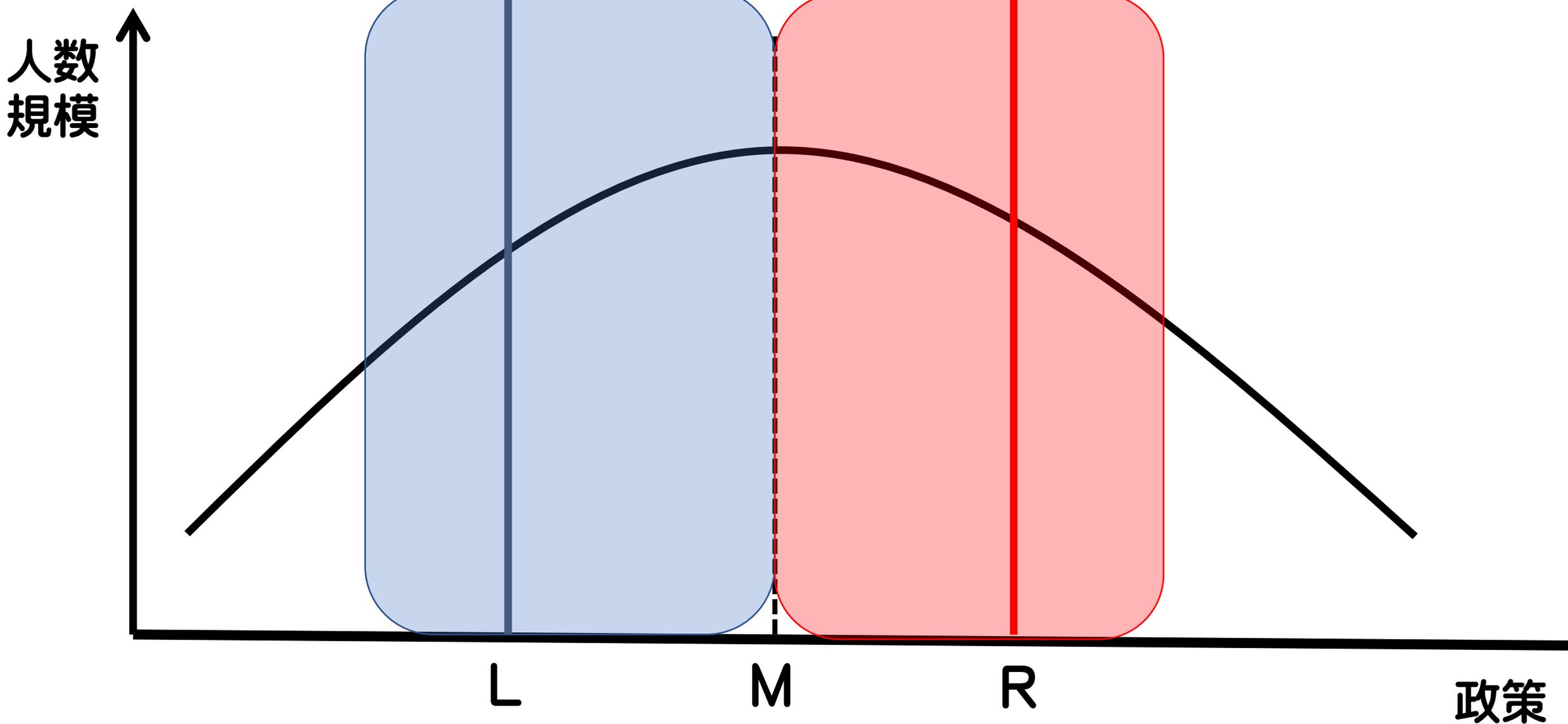
出所：千葉市・千葉市選挙管理委員会

世代別の投票率（千葉市）※平成27年千葉市議会議員選挙

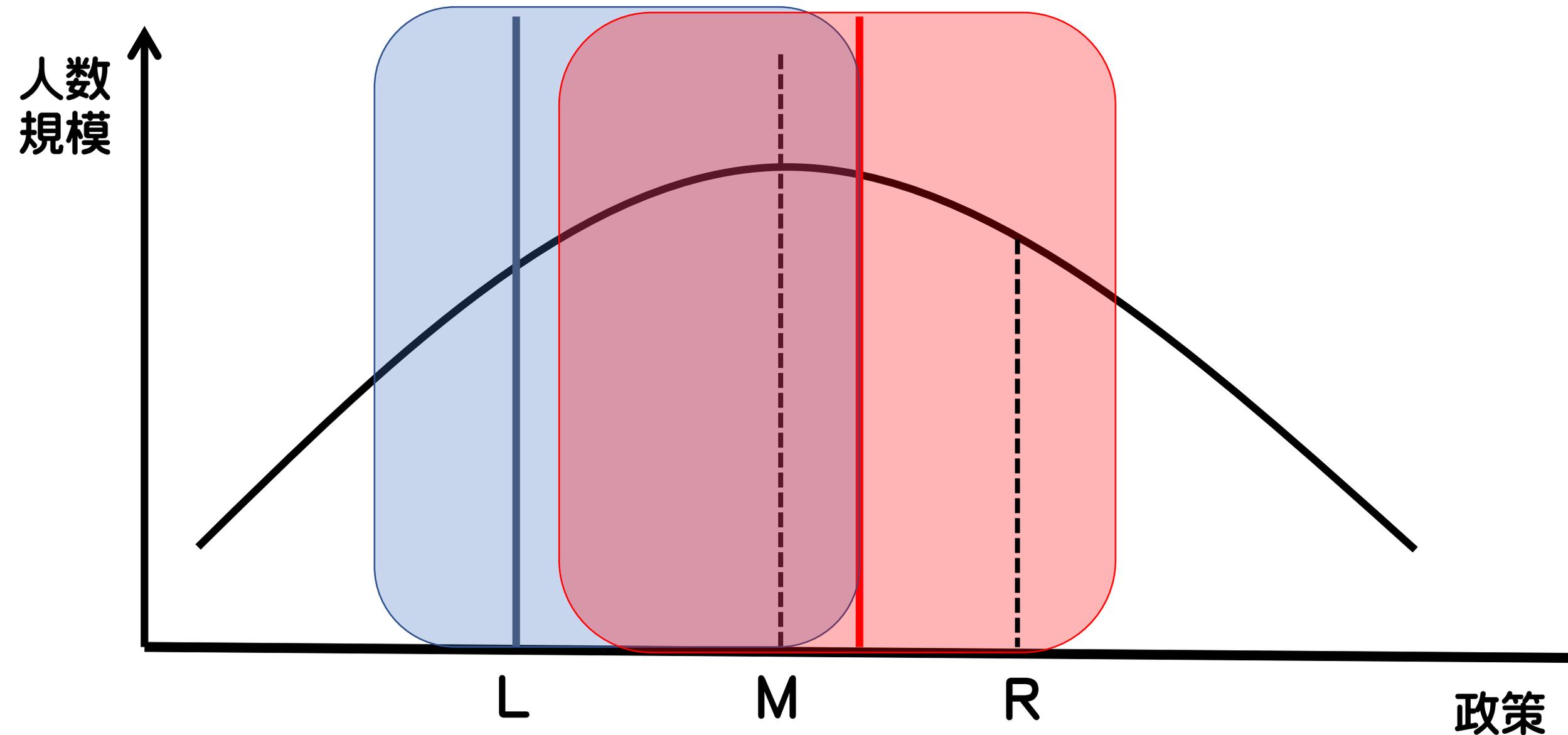


出所：千葉市選挙管理委員会

中位投票者定理

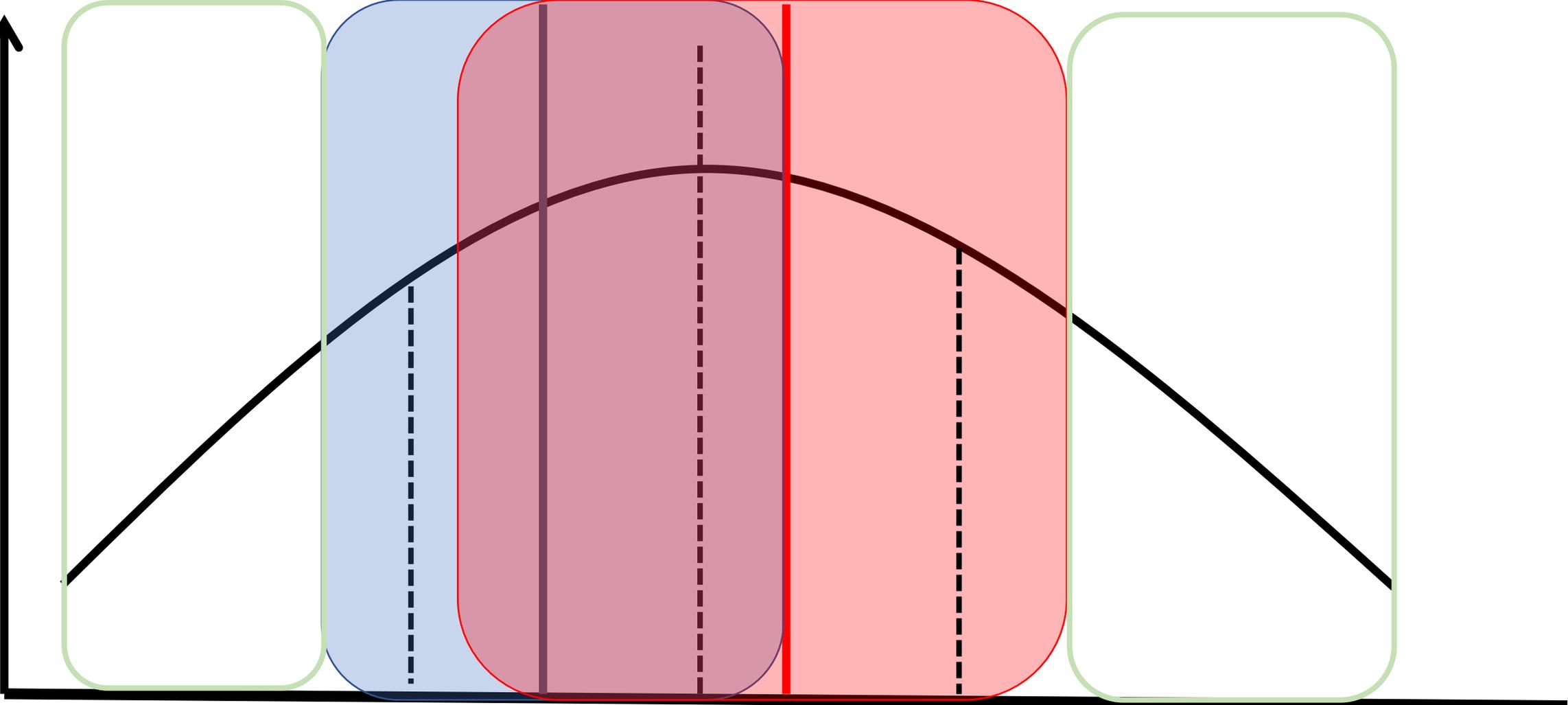


中位投票者定理



中位投票者定理

人数
規模



L

M

R

政策

スミシーズの棄権モデル

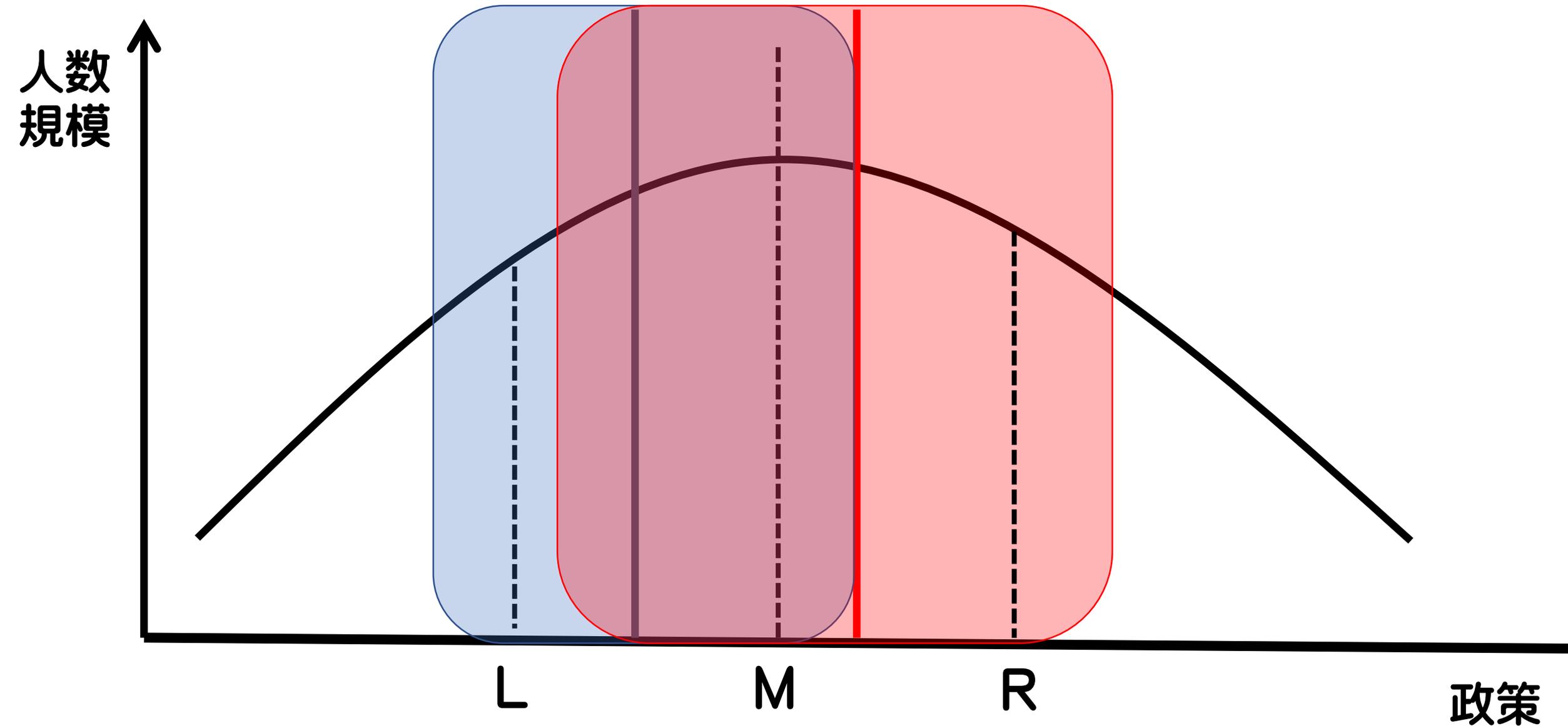
無差別による「棄権」

政策の違いが無いことにより、投票するメリットがほとんど無くなってしまふ。(どちらでもいい)。

疎外による「棄権」

自分が求める政策と、選挙で提示される政策が大きく違う場合に、どのような結果でも自分にとって結果が同じであれば、投票するメリットは無くなってしまふ。

中位投票者定理



合理的投票者モデル

$$V = PB - C + D$$

投票に行くかどうかは、次のような要素で決まるという「モデル」

自分が応援する候補者が勝利する確率(P)

自分が応援する候補者の政策から得られる利得(B)

投票に行くことのコスト(C)

投票に対する義務感(D)

これらの要素を合計して、プラスであれば「投票に行く」、マイナスであれば「投票に行かない」、という選択を行う。

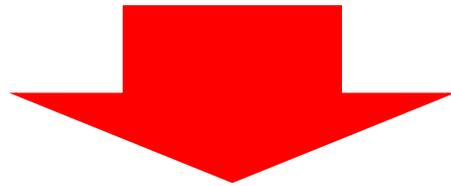
合理的無知と棄権

無関心と合理的無知

- 合理的無知とは、人々にとって、情報を収集する費用が大きければ、「合理的」に「無知」を決め込む可能性があることを意味する。
- 無関心とは異なり、有権者は「合理的」に投票を「棄権」（ただ乗り）する可能性がある。

疑問

- (1) 投票率を増加させるためには、どうすれば良いか？
- (2) 特に、若年世代の投票率を増加させるためには？



- (1) 来年4月の統一地方選挙
- (2) 来年7月の参議院選挙

学生ができることは？

地方選挙よりは国政選挙の方が投票率は高い ⇒ アナウンスメント効果
衆議院選挙は「政権選択選挙」 参議院選挙は「政権への評価」